

詳細報告 「きづがわ『であい・ふれあい・ささえあい』けあ」実践報告

熱心な助言で 生活の再建へ前向きに

西成区

80代男性を医療・介護につないだ事例を報告しました。

目が不自由で、ふらつきもあり、パン・コーヒー・角砂糖3個の食事をしてAさん。訪問しても訪問しても介護申請や医療受診を拒否される中「支える」と言い続け、ようやくAさんは受診となりました。糖尿病と白内障と診断されるものの、「みんなに支えられているんやなあ、目が見える生活をしたい!」と気持ちに変化してきました。認定は要介護2となり当初は入浴を拒否しつつもデイサービスを利用し始め、「こんなうまいものを食べたのは何年ぶりか」と話され、入浴もされることになりました。



Aさんは、電車に乗って宝くじを買いに行くのが夢だと語るように。阿部ケアマネジャーは根気が必要だったと話しながら、本人の生きる力、人間の尊さを感じた。その人の価値観を尊重し、医療・介護職員の連携で生活再建の一步をふみだすと発言しました。



第2部 職員報告

西成民主診療所事務の三河職員は、西大門刑務所を訪れました。日本の教育の中では、戦争についての被害の歴史が学ぶ機会がなく、日本からの侵略戦争、独立運動家たちへの弾圧跡を視察して心がえられる思いでした。



互いに話し合い戦争というものの愚かさを強く再認識させられる機会となりましたと感想を述べました。

西成民主診療所の平井正美事務長は12月に開催した大阪民医連医学生研修について報告しました。

医師をめざす学生たちからは、きづがわ医療福祉協会の診療所、介護事業所で学び、民医連の診療所は病気だけを診るのでなく生活の中でおこること、社会との関わりからおこることまで見抜くすばらしさを感じたこと、患者との垣根をなくすことを心がけ、診療する医師である前に人間対人間として接するという、みなと生協診療所の倉澤高志(所長)医師の姿に感動し、求める医師像だと思ったなど紹介がありました。



身近なお困り事を解決! 「おたすけ隊」の活動について

港区・西区

80歳以上の組合員さんを対象に行った「高齢者の熱中症予防訪問」について報告しました。

組合員さんと職員で600人訪問、220名と対話。アンケートで、4人に1人が緊急に頼れる人がいないこと、医療機関に通院している人が80%いる一方、介護サービスを利用していない人は70%「買い物が大変」「団地での付き合いがなくなり淋しい」などの話が出されたことを紹介。

この訪問にとりくみ「地域の困り事を聞けて良かった」「介護相談に結び付い



た」「地域でのつながりを作る必要がある」「酷暑の中、訪問する側が倒れないか心配だった」と発言。(このとりくみは環境省の「ひと涼みアワード」で優良賞を頂きました!)

大正区

2018年10月から再発足した「おたすけ隊」について報告しました。

500円の有償ボランティア活動に、現在19名が登録。一人暮らしの方が多く、蛍光灯の交換や換気扇の掃除、ポストの修理、認知症の方がベランダから物を捨てる対策のためのネットはりなど内容は様々寄せられます。

この活動で組合員加入に結び付いた例もあります。「おたすけ隊」は助けられる方が喜ばれることはもちろん、助ける側もやりがいと達成感を感じると発言。おたすけ隊を通して医療福



祉生協に入って良かったと実感していただけるようにしたいと締めくくりました。

高齢者への 熱中症予防訪問について



虹のバレンタイン行動

全国の医療福祉生協では、1997年から毎年2月14日のバレンタインデーに合わせて、地域に医療福祉生協の存在と主張を大きく知らせ、社会保障制度・医療制度の今後の変化について広く知らせ

る「虹のバレンタイン行動」を実施しています。大阪きづがわ医療福祉生協では、以下の日程と場所で実施します。(バレンタインカードやティッシュ配り、後期高齢者2割負担反対署名集め)

港 エリア 2月14日(木) 午後3時~4時 九条商店街、八幡屋商店街

大正エリア 2月9日(土) 午後3時~4時 噴水前広場

西成エリア 2月14日(木) 午後4時~5時 天下茶屋駅周辺

